



初めての試み

深川医師会理事
代田 剛

去る9月27日の日曜日の午後2時より、深川市立病院（以下市立病院）の大会議室で「深川市立病院に関する地域フォーラム」が開かれた。市立病院が北空知の住民に対して企画し、市立病院の現況と抱えている問題、さらにこれから始める新たなサービスについて説明した。最後に住民からの質問に答える形式で行われた。

まず市立病院 藤澤 真（ふじさわ まこと）院長が、今後の予測を含めての「北空知の人口動態～人口の減少と高齢者の増加～」を説明した。その中で、この間における市立病院の受診者数や、入院患者の推移、時間外受診者数や救急車で搬送された患者数やその状況などを説明した。特に本年4月より常勤医がいなくなった小児科と産婦人科については、これらの科では過去数年間で患者数が減少し、そのため派遣を受けていた大学医局からの医師を確保できなくなった経緯を述べた。次いで事務より市立病院の経営状況の説明があり、さらに新たに在宅患者に対して訪問看護を始める意向が示された。説明はスライドでなされ、出席者にはレジュメが配られた。そして、最後に質疑応答が出席者の市民からの質問に対して市立病院が答える形で行われ、市民からいくつかの質問と意見があった。例えば、出張であっても同じ医師に診察を受けたいので、出張予定表をより長い期間で前もって通知を示して欲しいとの要望が出た。また、手術の際の対応についての厳しい意見もあった。参加者は35名程度であった。

北空知という小さな二次医療圏で、常勤医が減少している中核病院が抱えている問題を住民に積極的に開示しようとしたと言える。市立病院の経営状況も含め、住民に説明した会は私が知る限り初めてで

ある。地域医療を担っている中核病院の困難な現状を、地域住民に共有してもらいたいという試みである。

最後に、深川医師会が住民に対してこれまで行ってきた医師会活動の一部を記載する。なぜなら、北空知の医療において、市立病院が中核病院であるとともに、その勤務医が医師会活動において重要な位置を占めるからである。深川医師会は、疾病について住民により分かりやすく、市民フォーラムや出前講座で説明してきた。これらの会で市立病院医師は重要な役割を担ってきた。このような会はたくさん回数が重ねられて来て、それなりに盛会であった。しかし、北空知に限らず地方においてはますます厳しい医療状況になっている今日、住民と医療体制に対しての問題意識の共有も必要なことである。深川医師会は、救急の日や深川医師会に所属する医師が市立病院での休日診療に出向く体制を始める時もフォーラムで現状を説明し、理解を得ることを試みてきた。今後はさらに深川医師会、市立病院、住民がより意識を共有して厳しい地方医療を進めなくてはならないと感じた。

深川市立病院
に関する地域フォーラム



「皆さまに信頼される医療を提供する」ことは、市立病院の基本理念であり、その実現を目指して開催するものです。

たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日時：平成27年9月27日(日)
14:00～16:00

場所：市立病院 2階会議室

主な内容：①院長講話
②経営状況等の説明
③質疑応答



問合先：市立病院 管理課 ☎22-1101

☆☆☆入場料無料 申込み不要☆☆☆